
青き狼 この実、果てるまで

カマ野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青き狼 この実、果てるまで

【Nコード】

N5276Y

【作者名】

カマ野郎

【あらすじ】

番外編。青き狼「ホープ」の伝説記録であります。

チャプター 1 1 (前書き)

「蒼き狼、この地果て海尽きるまで」という映画がありました。それはなぜか・・・日本で制作された映画でした。

チンギスハーンについての作品です。ですが、なぜか・・・日本人でしまいには日本語で作られた作品、意味が分かりません。なのでこれを作ることにしました

理由になつてないかもしれませんがそういうことです。下手糞ですが頑張ります。

チャプター 1 1

日付 1月31日 午前3時頃

記「すみません、こんなに早い時間に来てしまって」

男「イエイエ、いつでも来てもいいと言ったのは僕ですのでどうぞ」

記「ありがとうございますそれは」・・・

男「で、なんの取材なんですか？」

記「ええ、実に・・・言いにくいのですが・・・例の・・・」

男「サディステイクパーク事件とそれに関する都市伝説についてですか？」

記「ええそうですけど、なぜそれを？」

男「大体過去の話を蒸し返すのはマスコミのみなさん方や週刊誌の記者さんぐらいなので」

記「すみません」

男「いえいえ、あなたは僕の予想では記者ではないはず・・・」

記「ヘエ!?なぜそんなことわかったんですか!?!」

男「いや、カンで・・・」

チャプター 1 - 2 (前書き)

今回も頑張ります。

チャプター1-2

記「ええ〜カンでー!!」

男「そうっスね」

記「なんか、軽くないですか？」

男「え？まあ・・・そうっスねそれと正体を教えてくれたら・・・」

お「お塩MANABUと申します。元ニートをやってました」

男「答えの早っ！」

お「そりゃあ、そうでしょう聞かれたんだから」

男「じゃあ・・・僕の名・・・」

お「元東洋商事社員の浅田裕志さんですよね？」

裕「・・・」

お「何強張っているんですか？さっさと勿体ぶらず例の話続き教えてよ〜」

裕「なんで、それを知っているんだ？」

お「そんなことどうでもいいからしゃべらなきゃオマエの家族は皆殺しだいいいな？」

裕「・・・わかった、しゃべるよでもなすべて事実とは限らないぞ？」

お「そんなこと百も承知だからさっさとしろよ」

裕「ああ」

チャプター1-2 (後書き)

- イ。 27億円で作ったのに13億円しか回収出来ないのはある意味スゴ

チャプター 1 - 3 (前書き)

頑張ります。

チャプター 1 - 3

出会いは、組み事務所だったヤクザの・・・突然消えてしまった婚約者を探して繁華街やキャバクラなどに出入りしていた

。そしてそこからある情報を聞いたんだ・・・「サディステイックパーク」サド達の羨望のプレイランド・・・そこはイカレたエリートサド達の楽園でもあった。そんなところがあることも知らなかったし信じることもできなかった・・・だが、自称情報屋からもたらされたモノはそれだけじゃなかった。

ネットでそれを裏づけする動画が突然Youtubeで流された・・・その映像を見て驚いたよ

婚約者がケツをムチで叩かれながら犯されてるヤツだったんだから。

情報屋から拉致を実行している連中とその元締めを教えて貰った「広域暴力団の直系武闘派組長酒井竜一 38歳とその舎弟達数名」のアジトを。

僕はパニックって情報屋のアジトからそのまま直行で、ヤツらのアジトに向った。

まあ・・・案の定・・・襲ったら返討ちだったが。

ボコボコにされ腕をへし折られ後は始末される寸前だった。

だが、叫び声とともに目の前が真っ赤になったんだ最初は死んだんだな・・・と思っただが・・・

実際は全然違っかった。

チャプター 1 - 3 (後書き)

自分の書いている小説もあんま変わらない。

チャプター2・1（前書き）

遅くなりましたが、頑張ります！

チャプター2-1

? 「腕をやチャツてるね〜ボス?」

? 「腕どころか全身血まみれで瀕死だから死んじゃうかもしれないよ? こーちゃん」

こ「それぞれは! 珍しく人の死を見れるとはね〜そりゃいいかも」

ボ「まだ、決まったわけじゃないしそれに不謹慎です」

こ「瀕死だつて言うから・・・期待しちゃって」

ボ「そんなこと期待しちゃだめですよ」

こ「すいません、気おつけます。」

ボ「それよりも・・・アイツらのこと聞きましたか?」

こ「ああ・・・ダレのこと?」

ボ「陳 青龍とゆかいな幹部どものことです」

こ「ああ! 社会主義のブタどものことか・・・で? それで? 何か情報は?」

ボ「元合衆国の大統領クリントにあった・・・島で」

こ「マジかよ・・・アイツも客?」

ボ「ああ」

こ「あのド変態野郎・・・!! 絶対ブツ殺してやる!」

ボ「もう、始末したんで大丈夫です」

こ「早っ!! もう!?!」

ボ「それと僕の・・・」グイグイ!!

ボ「うん?」

裕「た〜す〜け〜て〜くれ〜」

こ「ウギヤ〜!!!! バケモノ〜!!!!」バン!バン!バン!バン!バン!

チャプター2・1（後書き）

自分の小説もあの映画も変わらないような・・・

チャプター2・2 (前書き)

ヒヤッホーイ!!!世界よ、学べ!

チャプター2-2

ボ「いや・・・本当にすみません・・・まさかホントに生きてるとは思わなくて」

ガチで、死んでいると思われてたんだ・・・と少しブルーになった
こ「ゾンビだと思ってつい・・・誠に申し訳ない」

そんな失礼なこと考えてたんだ・・・なんだかシヨックを受けたよ
裕「そんなことよりも君たちは何者なんだ？」

こ「君達・・・そうか・・・子供に見えるのか・・・」

ボ「しょうがないですよ、実際に子供なんですから」
こ「・・・」

何か地雷を踏んでしまったみたいだ

裕「あの〜何かまずい事、言いましたか？」

こ「いや、いいんだ・・・気にするなそれよりも名前を名乗らなきゃ失礼だよね？」

裕「あ、そうですよね僕は浅田裕司と言います」

こ「落合洗太、通称こーちゃんだヨロシク」

裕「よろしくお願ひします」

しゃべりかったがヤンキーみたいだった

ボ「ホー・・・レイブン・エストハイムですよろしくお願ひします」

裕「よろしくお願ひします」

一番最初なんて名乗ろうとしたんだ？聞くに聞けなかった。

チャプター2・2（後書き）

余談ですが、ディアイングレイにハマっています。
PVのグロさが最高です。後、エロさも。

チャプター 2 - 3 (前書き)

頑張ります、今日も。

この後、どういいう話が続いたかと言うと元大統領クリントが助けを求められてなぜかいきなりキレて

ひどいことをしようとしてブチ切れたボス（レイヴン）に両腕もぎ取ったという話やパークを作った

「理事長」と呼ばれる中国人がそれを見て苦笑いしクソを漏らした話など聞かされた後

、
僕の目的や2人の目的と今いる場所がどんな場所で、現在進行形で何が起きているのかを聞かされた。

要約すると、今いる場所は「隠れ家」でパークの監視とパークの幹部連中の調査するための場所だといふこと。

大体のメンバーはパークの連中に「愛する者」を奪われた漢たちだといふこと

一週間かけて「監視」と民間人を「漢」にするために非情になるための極意を教えたりして

この一週間でパークに関係していた奴らを1人残らず皆殺して、ボスとこーちゃんもパークに潜入して

被害者たちのケアをやりつつパークの内部を調査してたといふことだけを知らされ後は口を告ぐんで

こう言った「か弱い子羊でいるか、獯猛な狼になるか選んでください」

ちよつと質問してみた

裕「子羊を選んだらどうなるんですか？」

レ「羊はいらない帰ってもらおうそんだけです」

裕「絶対、狼にならなきゃならないですか？」

レ「狼を狩れるのは狼だけでサドを調教できるのはサドだけ悪魔を殺せるのは悪魔だけだから」

なぜか納得してしまい「狼」になる覚悟ができた

チャプター 2 - 3 (後書き)

なんだか、頭の中が混乱してきた。

チャプター3・1（前書き）

バーグ条約クソくられ。

チャプター3 - 1

それから二日間、地獄だった・・・

こ「ハイ、ランニング5000週!」

裕「え!?そんなに!!」

こ「つべこべいわずやらないとタマキン握りつぶすよ?」

裕「ハイ・・・」

6時間後・・・

裕「ハア・・・ハア・・・死ぬう」

こ「吐くまで腹筋背筋!」

裕「えええ〜!!!!」

こ「やらないとキミの婚約者、生きたまま鍋で煮込むよ」

裕「やります!!!!」

3時間40分後・・・

裕「オロオオオオー!!!!!!!」

こ「ハイ、クリア次はボスが武術を教えてくれるから期待してくれ」

期待できない・・・

こ「どいう武術を教えてくれるんですか?」

裕「それは明日のオ・タ・ノ・シ・ミ」

殴りたいが、自分よりも格段に強いので殴れなかった。

チャプター3・1（後書き）

パクるのはそんなカンタンにパクれるものじゃない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5276y/>

青き狼 この実、果てるまで

2011年11月21日23時47分発行